

第42回新日美展 上位受賞作品 講評

外部審査員
美術評論家

中野 中 先生

参議院議長賞 四方 公子

「記憶の中の旅物語」

水彩 F一〇〇号

メルヘンチックでロマンあふれる作品。木立の中に白壁の家々が散在し、思いつくを喚起し運んでくる梟(フクロウ)も数羽登場する。心の襞(ひだ)を重ねるようなマティエールにも工夫がある。にぎやかな画面を明暗多彩な緑と白でまとめあげた力量は確か。

衆議院議長賞 保田 昌子

「藤紋花器」

ガラス一五×一五×四〇cm

ガラス工芸作品。ゆるやかな開口部をもつ細身の花器。その上昇視線のフォルムに、藤色の枝垂藤が刻まれ、視線の上下する位置が美しく、清らかで、シャレた感性を感じさせる。高度な技術を何気なく装いながら、作品の魅力を支えている。

文部科学大臣賞

「溪谷の輝き」

水彩 F五〇号

高木 登

大きな岩が圧倒的な重力をもつてそこに在る。河辺は秋彩に満ち、ゆるやかに流れる溪流にその彩りを映し、明るい陽光が降りそそぐ。固く不動の岩、形をとどめぬ水の流れ、光がうみだす陰影、澄みきった秋気、自然の編りなす自然の摂理をまでとらえた構成力と描写力。

東京都知事賞

「夏のかおり」

水彩 F一〇〇号

水野 美預子

赤地に白抜き柄の卓上布に置かれた、緑濃き果実の輝く黄、ブルーの瓶、大胆な配色の鮮烈さ。布のくねりと折り目の陰影、果実の丸、瓶の角形等々多様なエレメントを盛りだくさんに駆使して、夏の色香を満載した。



中野 中 先生

外部審査員
元東京造形大学教授

芳賀 文治 先生

東京都議会議長賞 青山 絹江

「聖なる毬藻」

アイヌの方が、聖なる毬藻を大切に神に供えるのであるのか？アイヌの主が持っている様子を描いた作品。

新日美大賞

「暎一ノX」

吉井 静子

- ① 青山さんは永い間アイヌの生活を主題に取り組まれた作家。
- ② アイヌの人たちが自然を大切にして自然物と共生している様子が目や顔の表情などからわかる。

中尾賞

「モデル」

星名 昌和

- ① モデルがゆったりと座っている様子がよく描かれている。
- ② グリーン系統で全体を纏めている色調もよい。
- ③ 透明感があれば更によくなるでしょう。

芸術新聞社賞

「時を重ねて」

石村 空也

- ① 石村さんもこの街角に残されている大正時代の銅板の館を見つめて描き続ける作家。
- ② 緑青を吹いたグリーン系統と昭和時代のお店の様子など色調もよい、点景人物としてこの建物と同時代を生き抜いてきたような人物もいきています。
- ③ 欲を言えばこの建物の側面をもう少し描けば奥行きが生まれ、更に時代性が表現できたと思われます。

新人賞

「午後のカフェテラス」

茂木 時男

- ① ものをよく見て正確に描かれています。水彩用具の扱い方もよい。
- ② 全体的に落ち着いたテラスの感じが出ているが、もう少し色使いなどに強弱があると更によくならないと思われま



芳賀 文治 先生